



GPIFの最近の取り組みについて



第4期中期計画（令和2年度～令和7年度）

～ ESG投資の推進 ～

- GPIFは、令和2年度より、第4期中期目標期間に入りましたが、ESGやSDGsに関する投資や調査研究は引き続き推進していくこととしております。

中期計画（妙）

1. ESGを考慮した投資等

- 年金積立金の運用において、投資先及び市場全体の持続的成長が、運用資産の長期的な投資収益拡大に必要であるとの考え方を踏まえ、被保険者の利益のために長期的な収益を確保する観点から、財務的な要素に加えて、非財務的要素であるESGを考慮した投資を推進するとともに、その効果を継続的に検証していく。

2. 調査研究

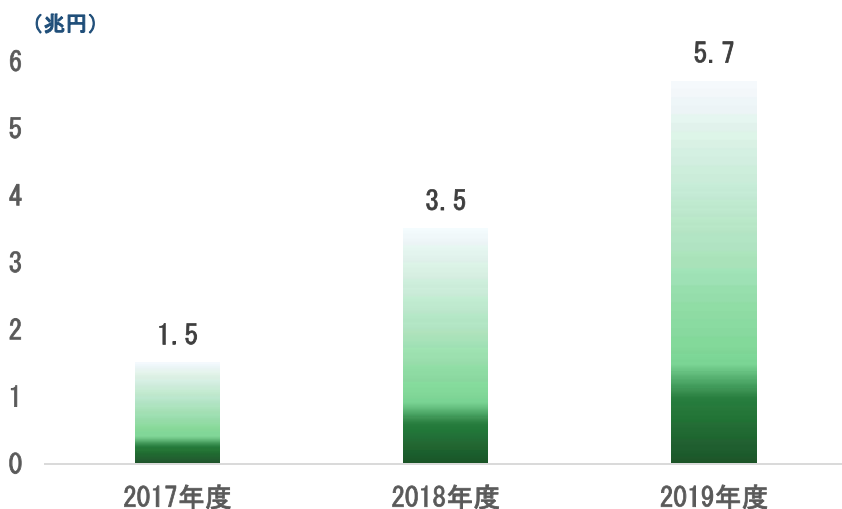
- 運用の多様化・高度化、サステナビリティを重視した投資活動の推進、リスク管理・内部統制機能の強化、先端技術の活用等に資する調査研究及び持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた官民の活動が、長期的な被保険者の利益と、安全かつ効率的な資産運用に資することの検証等に係る調査研究については、管理運用法人の業務課題を踏まえながら、適時適切に実施する。
- サステナビリティを重視した投資活動の推進に向け、投資におけるESGの考慮について調査研究等を行う。

第4期中期計画（令和2年度～令和7年度）

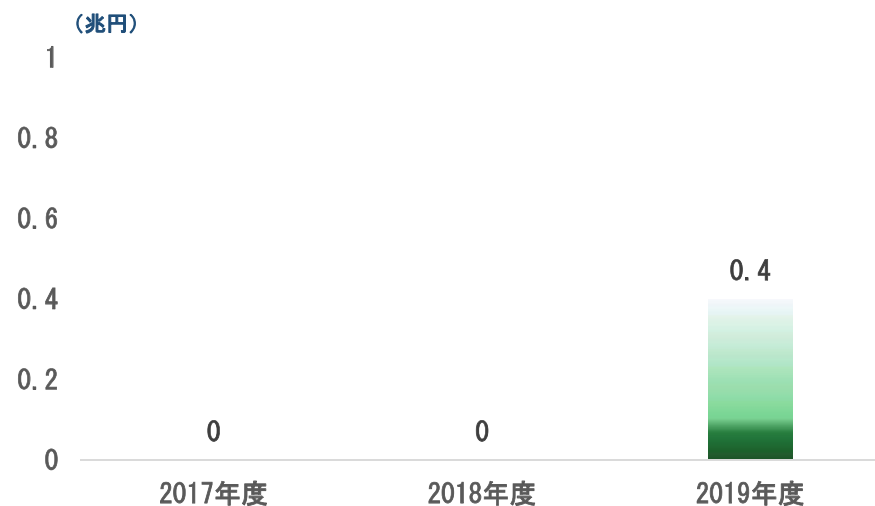
～現在のESG投資状況～

- 巨大な資産規模を持ち、資産全体に幅広く投資を行っているユニバーサルオーナーという性質と、100年後を見据えた年金制度の一翼を担っております。
- 長期に亘って、年金財政上必要な運用利回りを安定的に獲得していくためには、市場全体が持続的かつ安定的な環境を整えていくことが重要と考えている
- 株式については、2016年度からESG指数への投資を開始し、2019年度末で**5.7兆円**となっている
- 債券については、2017年度に実施した世界銀行との債券のESGに関する共同研究を踏まえ、グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドへの投資を開始し、2019年度末で**0.4兆円**となっている

株式



債券



経団連・東京大学・GPIFとの共同研究

～ ESG投資の進化、Society 5.0の実現、そしてSDGsの達成へ～

- ・ 迫りくる4つのメガトレンドの中、投資家は産業界や学术界とどのように協働していくべきか(SDGs目標17)



4M

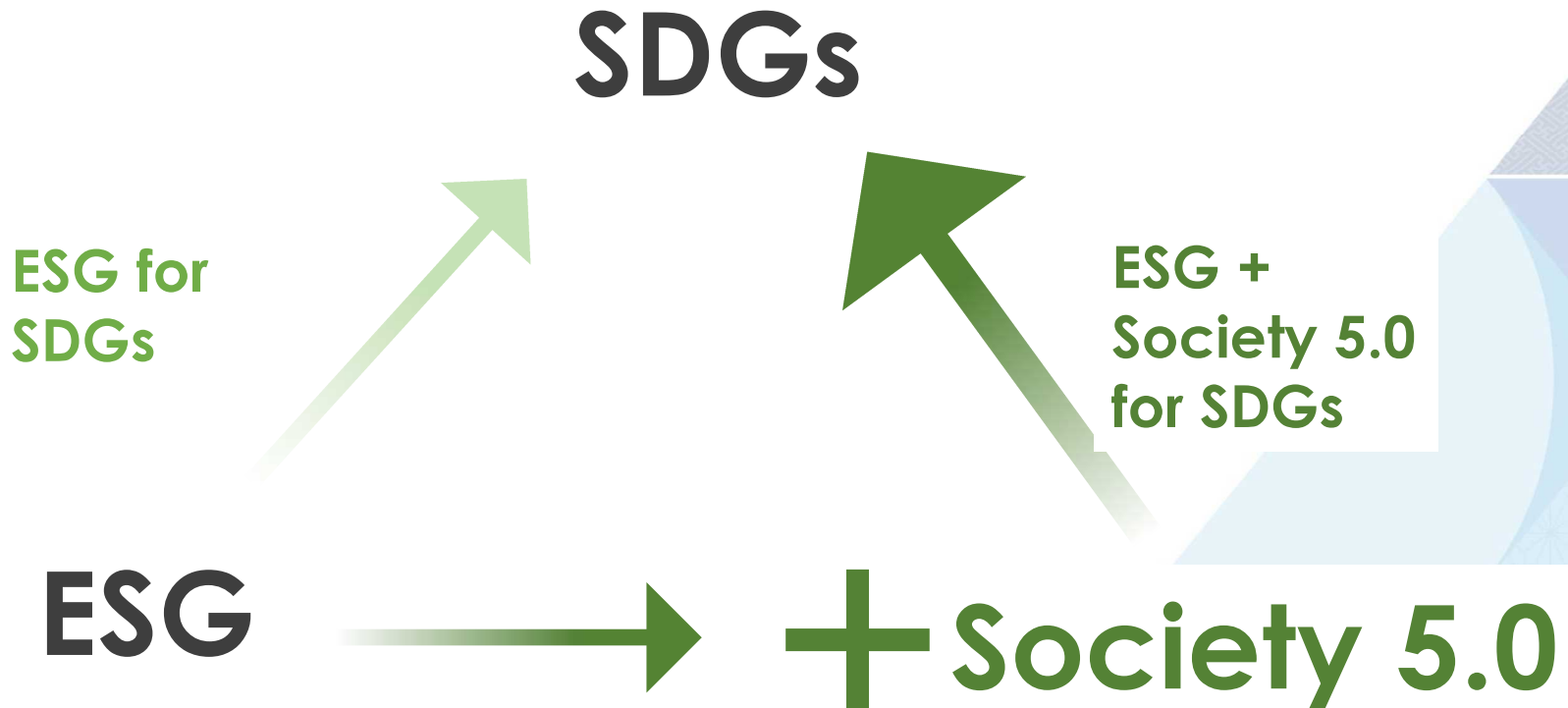


経団連・東京大学・GPIFとの共同研究

～ ESG投資の進化、Society 5.0の実現、そしてSDGsの達成へ～

- 投資家はESG投資を、我が国の経済界はSociety 5.0を掲げているが、違う出所から似たようなコンセプトである二つの結びつきについては明確でなかった。
- また、我が国の成長戦略の柱であるSociety 5.0が、投資家に浸透しているかも明確でなかった。

そこで、ESG投資とSociety 5.0を結びつけるために共同研究を実施



経団連・東京大学・GPIFとの共同研究

～ ESG投資の進化、Society 5.0の実現、そしてSDGsの達成へ～

- 認知度を図るため、経団連参加企業、GPIFの運用受託機関に対して、アンケートを実施。
- ESG及びSDGsに関する認知度はかなり高い水準であることに比較して、Society 5.0に対する認知度の向上はまだまだ改善の余地があることが判明

Society 5.0

47%



企業

30%



投資家

70%



企業

95%



投資家

SDGs

75%



企業

79%

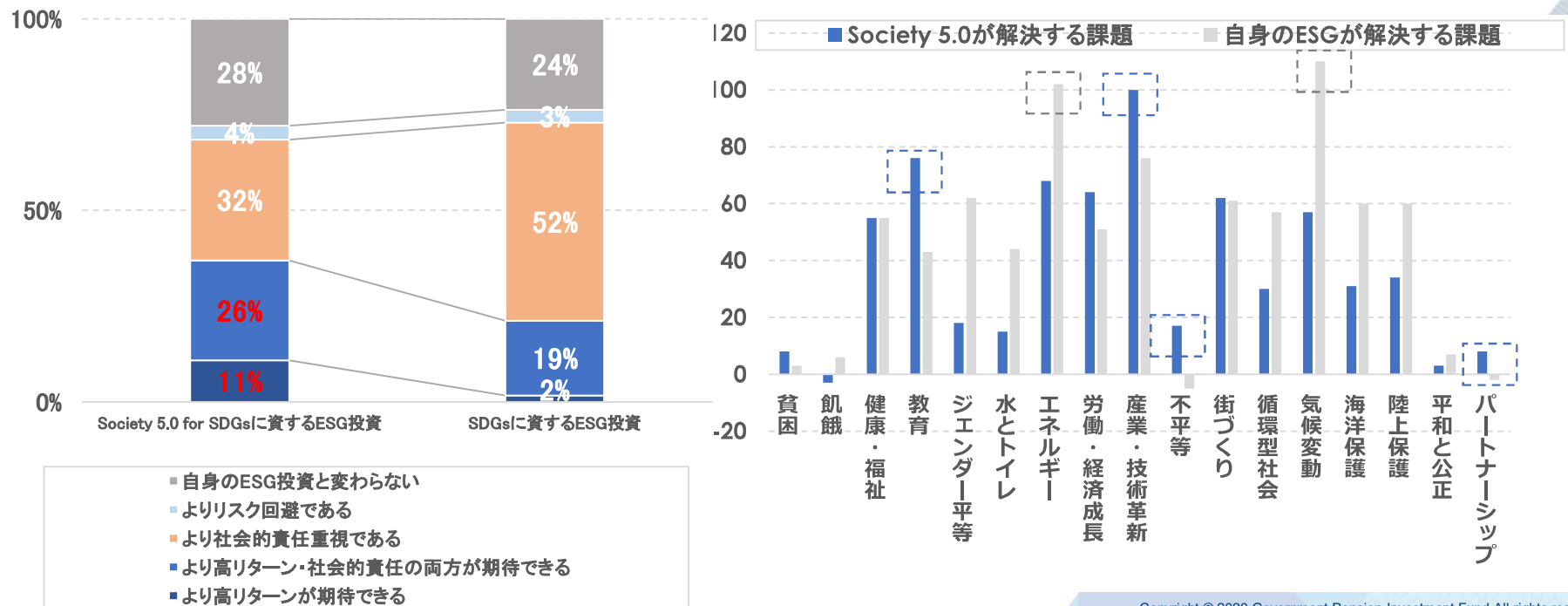


投資家

経団連・東京大学・GPIFとの共同研究

～ ESG投資の進化、Society 5.0の実現、そしてSDGsの達成へ～

- 一方、Society 5.0を通じたESG投資によって、単にSDGsの達成に資するESG投資よりも、収益の改善や社会的責任の両方が期待できるとの回答が見られた(左図)
- また、課題解決の違いに関するアンケートでは、教育や産業・技術革新など従来のESG投資よりも、課題解決の幅を広げる(成長性を期待する分野への)回答が目立ちました(右図)



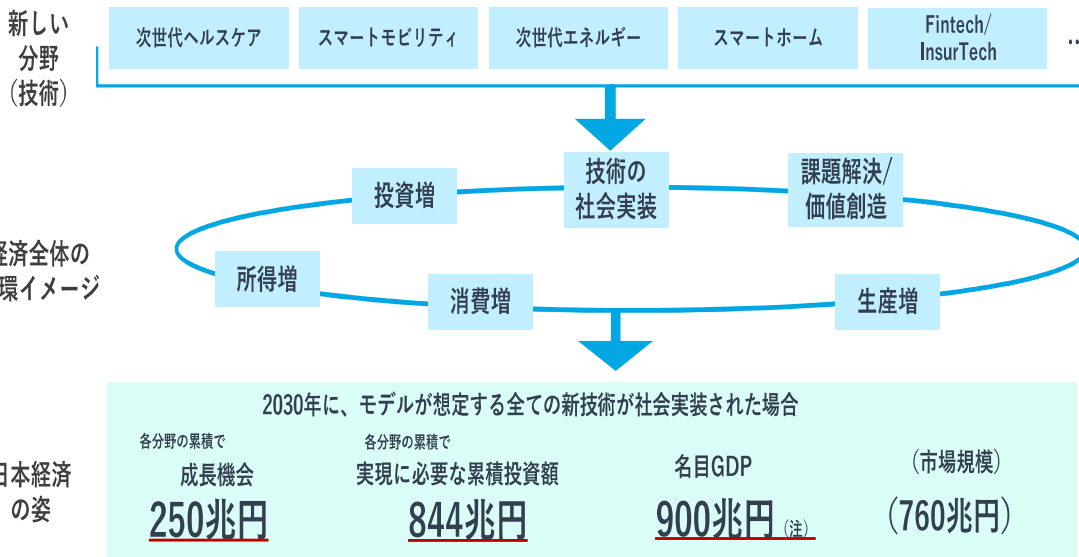
経団連・東京大学・GPIFとの共同研究

～ ESG投資の進化、Society 5.0の実現、そしてSDGsの達成へ～

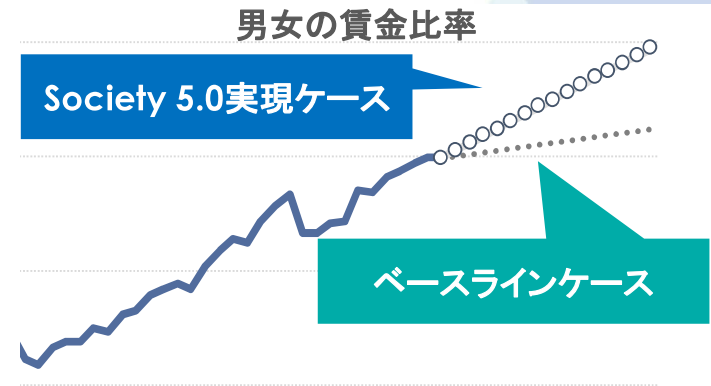
- Society 5.0が実現した場合の経済・社会に及ぼす影響を試算
- Society 5.0が実現した場合、新しい技術分野において経済の好循環が生まれ、我が国の成長に寄与するとの結果が試算された
- また、男女の賃金格差や労働者の増加を促すことも試算された

経済効果

社会的効果



女性の社会進出が進み、男女の賃金格差は2030年に**85%**まで改善



65歳以上の高齢者の就業者が**約100万人**増加

(注) 名目GDPは2015年を起点、2016-19年の4年間の経済成長率の実績値を織り込んでいない
 (参考：榊原ビジョン(2015)：2030年時点で名目833兆円、平均成長率+4.0%)



経団連・東京大学・GPIFのアクションプラン

取り組み主体

アクションプラン

3者で取り組むこと

- Society 5.0の認知・理解の向上 (Society 5.0の国内外への発信、行動原則へのSociety 5.0の盛り込み推進) 国内外の企業・投資家向け



- **Society 5.0の実現にチャレンジする企業や取り組みの後押し**
 - Society 5.0に関する経団連の各種提言や企業行動憲章で示された企業の変革に向けたアクションプランの推進
 - イノベーションを通じた課題解決イニシアティブの更なる推進 (例:「チャレンジ・ゼロ」構想など)
 - ESG投資家とSociety 5.0推進企業等とのマッチング推進
 - ベンチャーエコシステムの進化に向けた取り組み推進
 - Society 5.0の実現に向けた企業年金による投資の促進やスチュワードシップ活動の推進
 - Society 5.0に関連する金融商品 (投資信託等) の開発・普及の推進
- **Society 5.0の実現に向けた更なる検討**
 - デジタルトランスフォーメーション (DX) 会議を通じたSociety 5.0の産業構造の姿や企業変革アクションプランの提示
 - 各委員会を通じたSociety 5.0実現に向けた政府をはじめ多様なステークホルダーへの働きかけ



- フィジカルとサイバーの両空間におけるグローバル・コモンズに関する研究など、Society 5.0を支える望ましい社会経済システムとその方向へ誘導する方策について研究
- 知のプロフェッショナル、知のアントレプレナーとしてSociety 5.0をリードする人材の育成
- 大学を核としたベンチャー・エコシステム・モデルの形成など、産学協創に向けた取り組みを関係機関との協力を図りつつ加速
- ソーシャル・インパクト評価のあり方に関する研究など、Society 5.0 for SDGsの実現を担う企業等へ投資が向かうための制度・枠組みの研究や投資手法の開発



年金積立金管理運用独立行政法人
Government Pension Investment Fund

- GPIFは、積立金の運用において、投資先及び市場全体の持続的な成長が、運用資産の長期的な投資収益の拡大に必要であることの方針を踏まえ、以下の取り組みを検討する。
 - 投資原則等に、Society 5.0やSDGsを組み込むことの検討
 - ESG投資促進の観点から、Society 5.0に関する情報開示の後押し
 - ESG投資を進化させるため、運用機関をはじめ多様なステークホルダーとの協働
 - ESGとSociety 5.0を結びつけるための建設的なエンゲージメントの推進と適切な評価方法の研究
 - Society 5.0の実現を担う企業の長期的なパフォーマンスに関する継続的な研究
 - Society 5.0に関連する金融商品の開発・普及に向けたESG投資家の知見の活用